

標 題

出雲市北部地域で農地集約検討会が開催される！
～話し合いにより農地の集積・集約を進め水田農業の生産性を高めよう～

(ダイジェスト)

農地の集積には面的な集約化が不可欠であり、農地が点在していると、経営規模の拡大によるスケールメリットを十分に活かし切れないことがあります。このたび出雲市の北部地域で、土地利用型農業の担い手、生産者、農業委員、農地利用最適化推進委員、出雲市農業委員会事務局等関係機関が一堂に会して、農地の集積・集約に関する現状及び課題等の情報共有や農地の集約化について意見交換を行いました。

水田農業の生産性向上を図るための手法の一つとして農地の集約化がありますが、土地利用型農業の担い手同士では集積化（主に集約化）の調整が難しく困っているという声を受け、8月20日、「北部地域農地集約検討会」をJAしまね出雲地区本部・出雲市・出雲農業普及部が開催しました。

まず、しまね農業振興公社から、農地の集約化に活用できる農地中間管理事業の県内の借入・貸付状況について情報提供がありました。

次に、「話し合いにより農地の集積・集約を進め水田農業の生産性を高めよう！」というテーマで、当普及部が農地の集約化の必要性について説明しました。

最後に、農地の集約化に関する意見交換を行いました。概要は以下のとおりです。

1 面的な集約化の必要性（生産者の声）

- ・移動時間や燃料費の増加。大型農機の積み下ろしのロスがあり危険。
- ・大型農機を移動するための輸送トラックの購入又はレンタル代の発生。
- ・点在している水田の水管理に労力を要す。
- ・排水不良で転作作物の生産性が上がらない。連担化での安定多収が可能。
- ・農地が集約化(団地化)できたことで、1日あたりの田植面積が飛躍的に伸びた。

2 農地の集約化のポイント

- ・関係機関によるマッチング支援に期待。
- ・高齢化により地域の担い手が不足。担い手の育成が重要。
- ・10年先20年先の将来を見据えて農地を維持管理する必要がある。
- ・ほ場整備等に併せて、集約を進める必要がある。水系ごとにまとめるやり方もある。
- ・農地の出し手側と作り手側の相互扶助が重要（地域の溝そうじ、畦畔雑草対策等）。
- ・都市部の点在農地では、栽培が特に難しい（移動時間、水管理）。

今回の検討会では、具体的な集約化の作業については、協議できなかったものの基本的な考え方については概ね共有することができました。今後も当普及部では、関係機関と連携して農地の集約作業の実践を進めていくとともに、この動きを出雲市内全域に波及していきたいと考えています。